

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.4
Q1 室内環境						-		-	-
1 音環境					-	-		-	-
1.1 室内騒音レベル			—		-	-		-	
1.2 遮音					-	-		-	
1			開口部遮音性能		-	-		-	
2			界壁遮音性能		-	-		-	
3			界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	
4			界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	
1.3 吸音			—		-	-		-	
2 温熱環境					-	-		-	-
2.1 室温制御			—		-	-		-	
1			室温		-	-		-	
2			外皮性能		-	-		-	
3			ゾーン別制御性		-	-		-	
2.2 湿度制御			—		-	-		-	
2.3 空調方式			—		-	-		-	
3 光・視環境					-	-		-	-
3.1 昼光利用			—		-	-		-	
1			昼光率		-	-		-	
2			方位別開口			-		-	
3			昼光利用設備		-	-		-	
3.2 グレア対策			—		-	-		-	
1			昼光制御		-	-		-	
3.3 照度			—		-	-		-	
3.4 照明制御			—		-	-		-	
4 空気質環境					-	-		-	-
4.1 発生源対策			—		-	-		-	
1			化学汚染物質		-	-		-	
4.2 換気			—		-	-		-	
1			換気量		-	-		-	
2			自然換気性能		-	-		-	
3			取り入れ外気への配慮		-	-		-	
4.3 運用管理			—		-	-		-	
1			CO ₂ の監視		-	-		-	
2			喫煙の制御		-	-		-	
Q2 サービス性能					-	0.43		-	3.4
1 機能性					-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ			—		-	-		-	
1			広さ・収納性		-	-		-	
2			高度情報通信設備対応		-	-		-	
3			バリアフリー計画		-	-		-	
1.2 心理性・快適性			—		-	-		-	
1			広さ感・景観		-	-		-	
2			リフレッシュスペース		-	-		-	
3			内装計画		-	-		-	
1.3 維持管理			—		-	-		-	
1			維持管理に配慮した設計		-	-		-	
2			維持管理用機能の確保		-	-		-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.50		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			—		3.0	0.50		-	
1			耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2			免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			—		3.0	0.30		-	
1			躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2			外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3			主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4			空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5			空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
6			主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			—		2.8	0.20		-	
1			空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2			給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3			電気設備		3.0	0.20		-	
4			機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5			通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3	対応性・更新性			3.9	0.50	-	-	3.9
	3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	製造機械設備設置のため階高を4,500以上としている	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	—	3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		6750N/m2	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	1.7	
1	生物環境の保全と創出		—	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.4
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	-	2.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		—	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.13	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		—	2.0	0.63	-	-	2.0
4	効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	-	2.4
1	水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1	節水	—	1.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	—	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		2.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	2.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	CO2冷媒冷凍機	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	-	2.4
1	地球温暖化への配慮		—	3.0	0.33	-	-	3.0
2	地域環境への配慮			2.0	0.33	-	-	2.0
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	1.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		2.3	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	2.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		1.6	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	1.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－			－	－	－		－						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	1.0		－	－	－	－	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	－	○	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		－	－	○	－	－	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		－	－	－	1.0	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		－	－	－	－	－	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0		－	1.0	－	－	－	－	－	－	－				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	○	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		－	－	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－		－	－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	－	1.0	－	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		－	1.0	－	1.0		－	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	－		－	－											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	0.0%				
自然換気有効開口面積率	0.0%				

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	25 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	4.57 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	6750 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%				
空地率	20%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m		－ 断熱等性能等級		対象外 相当			
自然エネルギー直接利用量		0 MJ/年㎡		採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
				通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
BEI/BEI _m		非住宅	1.00	住宅	－ 太陽光	.0kW	太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%					
特定調達品目	－	エコマーク商品	－	自治体指定の特定品目等	－	
使用比率	0.0%					
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	8			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		4% 隣棟間隔指標Rw 0.40									
地表面対策面積率		22.0%		屋根面对策面積率		0.0%		外壁面对策面積率		0.0%	
見付面積Sb		1,606㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		74.3 m		基準高さHb		450 m	
緑地		㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡	
								高反射対策面		1,000㎡	
								再帰性反射対策面		㎡	